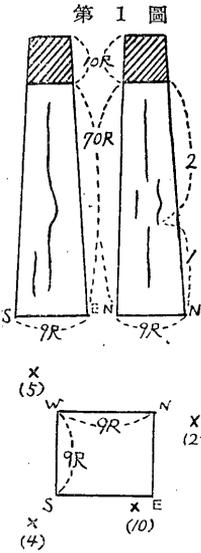


昭和 13 年 5 月 23 日 鹽屋崎沖地震被害調査報告

福島測候所 柳谷喜太郎・高木一郎

5 月 25 日午後郡山市内の被害状況を調査、同地にて中央氣象臺派遣の竹花技手と調査上の打合せを行ひ同道にて須賀川町方面を調査、翌日は安積郡熱海高玉温泉地及高玉鑛山に就き調査を行ふ。其の状況次の如し。

郡山市 一般に強震程度なるも大正 12 年の關東地震及昭和 8 年 3 月 3 日の三陸沖の地震より強く感じ古老の知る範圍にて最も強と云ふ。



郡山製絲會社の煉瓦作りの煙突底部は正方形にて一邊 9 尺、各角は東西南北に殆んど合致し長さ 80 尺、相當に古きものであるが上方約 10 尺崩壊した。落下量から見ると東微南の煙突間近に最も多く量的に 10 とすれば西側に 5、南側 4、北々東側 2~3 程度の割合で落下距離は煙突底部より西、南、北々東部共に 6~7 尺位離れてゐる。南東面北西面には上部から下部に長い割目が出来、殘部 70 尺の中、下方より双方共に 3 分の 1 の高さに南東面では彎曲し、北西面では 2 本の割目が出来てゐる。(第 1 圖参照)

小松醬油會社の煉瓦作り六角煙突高さ全長 60 尺、下部の對角距離は外方にて 6 尺、一角は南西に向く、是も上方 5 尺位崩壊した。落下量の大部分は南西側の道路上約 2 間の所に折壞落下してゐるが一部の破片は北側に接する家屋屋根上煙突より 8 尺位の所に落下し此處を破壊してゐる。人身感覺による震動は北東—南西であると云ふ。

須賀川町 (竹花技手の報告に譲る)。

熱海・高玉温泉 水量及溫度において大體變化なきもの半數以上と云ふも、變化ありたるもの、主なるものを示せば

(i) 高玉温泉(蓬萊館) 當温泉は地下 300 尺より鐵管にて導くものと云ふ。

水量及温度にも殆んど變化なしと云ふも地震直後著しく白濁す。翌日には舊に復す。温度は湧出口にて 42 度なり。

(ii) 熱海温泉(佐藤吉榮方) 地震當時多少白濁し水量は頗る多量となりたり。温度は從來低く冷泉と云はるゝ程度なるも當時は特に低温となる。翌日頃より次第に水量減じ温度も舊に復しつゝあると云ふも震前よりは未だ可成りの多量低温と云ふ。26 日の温度 30.3 度なり。

(旅館東館) 地震直後極度に白濁し量も可成り増加す。白濁は其の後間もなく舊に復したるも、水量は相變らず多く温度は 26 日 25.5 度なりしも從來は 24.0 度なりしと云ふ。中央氣象臺の御厚志により水質の調査を行ひたる結果は次の如し。

水素イオン 濃度 (pH)	温泉名	強震直後の白濁せるもの	透明に復せるもの	摘 要
	熱海(東館)	7.7	6.6	
高玉(蓬萊館)	7.0	8.0		
鹽素イオン 濃度 (毫/立)	温泉名	強震直後の白濁せるもの	透明に復せるもの	
	熱海(東館)	68.0	73.8	
高玉(蓬萊館)	106.0	101.8		

(iii) 高玉鑛山 製練所下の平地に放棄される鑛屑は粘土様のもので 2,3 年來同一場所に順次に堆積されてあつた。上部は既に固濁してある爲人馬の歩行にも何等差支へなき程度のものであるが、内部は泥土様の半流動狀を呈しつゝあつた爲、地震動に刺戟せられたると、上部の重さによりて受ける壓力の爲、遂に東南東に傾斜する低地を破つて下方に流下したのである。崩壊部分の幅略 150~200 米、長さも又略同程度で上部の崩壊深さ 7~8 米である。大略體積は 23 萬立方米位の泥土で是が南東に續く谷間に沿ふて流下したのである。流下物は全然岩石を混へない泥土であつた爲ほんの一部分の外、流路の缺壞を伴はず、下方にて次第に量を減じつゝあるが、此の泥流は青酸加里を含む爲其の流路の樹木は枯死するであらうし、谷間に沿ふ約 1 軒半の下方、石筵川に流下した爲、此の支流を含む阿武隈川の下流では魚族の斃死したのが少なくなかつた。崩壊口及流路の總面積は縣山林課調査によれば略 4.8 へ

クターと推算され、形は大體崩壊口を頭とするオタマジヤクシ形である。

(寫眞参照)

福島市絹摺會社倉庫の北面略壁半分落下、又天満宮境内の燈籠一對共上半分南南東に倒伏する外所々壁に龜裂の所あるも大なる被害無し人身感覺震動は一樣に南北動なり。(以上柳谷技手調査)

(i) 飯坂温泉(信夫郡)

地震直後湧出量の増加と湧湯の白濁あり濁りたるは地震直後にして間もなく舊に復せるため出張の際實見調査出來ざりしも旅館の話を綜合するに恰も白粘土を溶きたる如く白濁し濃度稍々薄く半日位にて止みたるものの如し、湧出量の増加は平均5割程度なるも局部的に多量の個所あり、共同風呂(摺上川岸)にては地震直後約10倍、鱒湖湯(共同風呂の西方1軒)では約5倍の湧出量ありたり然し一般に漸減しつつあり。温度は變化を認めず摺上川畔の福住旅館にて60度(湧出口)なり。

縣保安調査による地震被害狀況

地名	家屋の被害		煙突の倒折		商品の被害		橋梁堤防		水道管		其他(瀬戸焼カマド電柱線等)		備考
	個所	全額	個所	全額	個所	全額	個所	全額	個所	全額	個所	全額	
福島	9	370	—	—	5	555	—	—	—	—	4	60	
本宮	1	10	—	—	5	300	1	100	—	—	—	—	
郡山	—	—	2	250	—	—	2	200	—	—	—	—	
須賀川	27	2,935	2	700	11	835	—	—	—	—	49	650	炭焼カマド
猪苗代	18	563	2	450	—	241	—	—	—	—	—	—	
白河	86	1,120	—	—	—	—	—	—	—	—	46	1,175	
矢吹	103	2,795	—	—	29	332	2	700	—	—	41	—	炭焼カマド
石川	1	15	—	—	2	80	—	—	—	—	5	25	
小野新	—	—	—	—	—	—	1	5	—	—	—	—	
平	—	—	1	100	2	300	—	—	—	—	1	2,450	豊間燈臺レンズ
植田	2	60	—	—	1	550	—	—	1	5,000	—	—	
浪江	3	110	—	—	1	30	—	—	—	—	6	1,200	瀬戸ヤキカマド
原ノ町	—	—	—	—	1	60	—	—	—	—	—	—	
四倉	—	—	—	—	1	10	—	—	1	10	—	—	
合計	250	7,978	7	1,500	66	2,248	6	1,005	2	5,010	107	6,693	

(ii) 湯野温泉(伊達郡)

飯坂温泉と同様地震直後湧出量の増加と白濁現象あり濁りたるは飯坂と同様の程度並に経過なり、湧出量は一般に多く平均2倍、最も多き所にては略3倍の増加である。同地内にては同様湧出量は漸減を示しつつあり、温度は變化なく前野屋旅館(摺上川畔)にて60度(湧出口)なり。

(iii) 天王寺(信夫郡) 穴原(伊達郡) 兩温泉共飯坂湯野温泉の北方(摺上川の上流)約2軒の地點にあるも湧出量水色及び温度何れも變化なし前記温泉地域一帯共震度は強震で昭和8年3月3日の三陸沖の地震に比較し略同程度なるも、震動時間少く地震に依る被害全く無し。(以上高木技手調査)

二. 地震被害 縣保安課調査の地震被害状況前表の如し。

昭和13年 福島縣鹽屋崎沖地震被害調査報告
5月23日

福島測候所 會津出張所

猪苗代町 福島測候所會津出張所廳舎の内壁に南北の龜裂多く生じた。町内にては壁の龜裂は無數にて殊に土藏に多い。煙突の倒潰2ヶ所あり。本町酒造業酒井庄吉氏宅のものは高さ約8間位のもの基部約2間位を残して屋根の所より殆ど北方に崩壊し、通路を距て、隣接せる猪苗代煙草專賣所の倉庫の屋根を破壊す。

他の一つは新町味噌醬油雜貨商別府幸吉氏方煙突高さ約9間4尺のもの上端約8尺位有形の原形のまま倒潰して南方のトタン屋根を約1間四方打ち抜いて落ちた。

其の他猪苗代郵便局區内にて電話の障碍15件あり。又道路の被害は川上温泉より數町先の縣道約3~4間陥落缺潰した。

尙會津出張所にて觀測せる餘震5月中には有感7回、無感188回あつた。